

くらしナビ 生活 Lifestyle

kurashi@mainichi.co.jp

好評 薬剤師の在宅訪問



在宅薬に薬の説明をする薬剤師の前田裕介さん

薬局といえは、薬を調合したり、売ったりするだけの印象が強いが、最近は薬や栄養剤を患者宅に届けたり、薬の飲み方をアドバイスしたりする「在宅訪問薬剤師」が活躍し始めた。通院に苦勞する高齢者が増えるなか、患者の評判も上々だ。

東京都北区の住宅街にある

「みつばち薬局待鳳店」。在宅訪問を積極的に進める一般社団法人「京都コムファ」が運営する六つの薬局の一つだ。常勤の薬剤師は5人。1カ月で250回、計約100人の患者を回る。同店主任の薬剤師、前田裕介さん(77)に同行した。

通院苦勞の患者増加 ■ 飲み方指導、雑貨の配達も

最初に訪れたのは、糖尿病などを患い足が不自由な男性(76)宅。男性は6種類の薬を飲んでいますが、前田さんは飲み忘れがないよう、壁に掲げられた「薬カレンダー」に、1週間分の薬のシールをいねいに貼った。「ちゃんと飲んでくださいね」。薬の説明を終えた後、念を押すことも忘れぬ。

「歩くだけでもしんどい。薬を届けてくれて、説明までしてくれるのは本当にありがたい」と、男性は笑顔を見せた。

った時間は、約2時間だった。「患者に寄り添う薬剤師になりたい」と、就職先がこの薬局を選んだ前田さんは「介護の知識や技術も覚えたい」と意気込む。

薬局大手のスキホールディングス(愛知県安城市)も、在宅訪問に力を入れる。現在、864店のうち1000店舗で在宅訪問を実施し、計約5700人の患者をみている。東京都大田区にあるスキ薬局大田種の本店では、5人の常勤薬剤師のうち3人が、老人ホームの患者を含め約100

0人を回る。その一人、高明愛さん(38)は昨年5月「患者と接する在宅の仕事の方がやりがいがある」と、他の薬局から移ってきた。

医師や患者の求めに応じ、薬のほかおむつ、ガーゼ、経腸栄養剤なども届ける。サプリメントと薬の飲み合わせ、ビタミン剤の飲み方などもアドバイスする。スキ薬局グループは在宅患者向けの訪問看護ステーションも展開しており、この看護師とも連携する。同じ患者を別の日に回った看護師の患者情報が、服薬指導の参考になるからだ。高さんは「ケアマネジャーやヘルパー、看護

在宅訪問(訪問調剤ともいう)を行っている薬局は、全国にある約5万4800店の1割程度(12年3月末現在、厚生労働省調べ)と、まだ決して多くはない。「薬剤師のためのコミュニケーションスキルアップ」(講談社)を共同で執筆した井手口直子・帝京平成大学薬学部准教授(薬学)は「これからの薬剤師は、薬物療法はもちろん、患者にきめ細かく対応できる『コミュニケーション』能力の高さが必ずしも指摘。在宅医療や介護を受ける患者側に対しても『ケアマネジャー』などに相談して、在宅訪問に対応できる薬局を探してもらおうとよいでしょう」とアドバイスしている。